令和５年度６月号　令和５年５月３１日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校　長　佐伯　孝司
https://shibuya.schoolweb.ne.jp/ueharae

「心を一つにもりあげよう」とする過程と成長　　校長　佐伯　孝司

５月２７日（土）に実施した上原スポーツフェスティバル。ＰＴＡの皆様、地域の皆様のご協力、当日の応援、当日に至る過程でのご理解・ご支援に感謝申し上げます。

練習の中で、たくさんの大切なことをつかみました。

児童の掲げるスローガン「心を一つにもりあげよう」のとおりに、当日も、児童一人一人が力を出し切ろう、仲間と気持ちを合わせようとする様子に、何度も心を打たれました。きらきらの笑顔で弾むように踊る姿は、校庭全体に明るい笑顔を広げてくれました。どっしりと構えたと思えば、高く大きく素早く動く姿から、持てる力が込められた重厚感や躍動感、自分の持ち場を全力で守る責任感などが感じ取れます。みんなで動きをそろえたり、タイミングを合わせてウェーブを表したりする姿から、協働意識と一体感などが感じ取れます。鼓笛の演奏を含め、感動を届けてくれたことが、参観者の大きな拍手となり、称賛の言葉となり、それがまた児童に達成感や自己肯定感などとして返っていったことと思います。そのことが、練習の過程においてつかんだ大切なこと、全力・協力の意識と態度を深化させてくれるに違いありません。指導する私たちも、児童と共に、目的とプロセスの共有、相互の理解と尊重をしながら取り組むことの大切さを改めて学んだところです。

プログラムの最後、６年生のリードで、全校で上原小にエールを送り、校歌を歌いました。６年生の呼びかけに応えて元気に歌ってくれた１～５年生も、その時に自分たちにもできることに力いっぱい取り組み、１～５年生のいる児童席からも元気な声が響きました。６年生は、進行の都合を考え、１番だけ歌って次に進もうとしましたが、児童席が盛り上がり２番の歌声が響き始めたところで、６年生も合わせて２番まで歌ってくれました。全校が「心を一つにもりあげよう」とした姿でした。企画、準備し、リードしてくれた６年生。さらに、下級生の状況に合わせて臨機応変にフォローしてくれた６年生。よきリーダーであり、よきフォロワーとして成長したその姿に、また心がふるえました。たくさんの感動をくれた児童に、ありがとうという気持ちでいっぱいです。

6年生が整頓してくれた忘れ物入れの箱

児童の成長は、当日の姿にとどまりません。昇降口の角に置かれた忘れ物入れの箱。丁寧に整頓された様子です。上原スポーツフェスティバルの前日、お客様を少しでも気持ちよく迎えられるように…などの気持ちを込めて、係の６年生がきれいにしてくれました。この日、１～５年生が下校した後、６年生は他にもたくさんの準備をしてくれました。当日も、行事の運営を支えてくれました。本部に座っていた私の隣では、アナウンス担当の児童が本番直前まで何度も原稿を読み返していました。その原稿には、工夫して表現するための印がたくさん書き込まれています。頑張る全校児童のために、応援してくださる参観者のために、少しでも盛り上げよう、安全でよりよい環境をつくろう…とする６年生の、学校を支える責任感と人を思いやる温かい気持ちが、皆様にも届いていたら幸いです。

心を込めて前日準備に取り組む6年生

真剣な姿勢、眼差し。これからも大切に。

小学校学習指導要領解説特別活動編によると、体育的行事では、「運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組む」などをねらい、「実施に至るまでの指導の過程を大切に」することが求められています。これを成し遂げた児童に対し、学校では、当日までの過程において様々な心や能力が育っていることを児童自身に改めて自覚させ、今後の活動に生かせるようにすることが大切であると考えます。今後ともご協力のほどお願い申し上げます。